

報館書圖立市越川

號念紀年周十館創

祝辭

武田熊藏

圖書館ハ地方文化ノ木鐸ニシテ民衆智識ノ倉庫
 タリ、若シ學校ヲ年月ヲ期シテ兒童青年ヲ教育
 スルノ機關ト云フヲ得ベクンバ、圖書館ハ人ノ
 一生ヲ通シテ自然ニ開發スルノ機關ト云フヲ得
 ベシ、思想モ是レニヨリテ善導セラレ趣味モ是
 レニヨリ涵養セラレ今ヤ都市ニ村落ニ到ル所圖
 書館ノ施設ニ汲々タルハ眞ニ故アリ

我が川越圖書館ハ始メ私立ニ起リ尋デ町立トナ
 リ遂ニ市立トナリ年ヲ追テ其ノ規模ヲ整フルニ
 至レリ、其ノ間關係者ノ努力篤志者ノ贊助ハ歴
 ヲトシテ人ノ耳目ニ存シ感銘深刻長ク忘ルヘカ
 ラザルモノアリ

余ヤ乏テ市長ニ承ケ微軀ヲ提テ本市發展ノ爲ニ
 盡サント欲スルモノ其ノ事業一ニアラズ雜然ト
 シテ前ニ横タハレリ就中圖書館ノ擴張ヲ圖リ其
 ノ効果ノ普及ヲ期スルハ必須ノ責務タルヲ感ス
 ルヤ深シ

茲ニ本館創設以來十周年ヲ迎フルニ際リ既往ニ
 對シテハ功勞者各位ノ事績ヲ追憶シテ感謝ノ微
 衷ヲ表シ將來ニ向テハ有志者諸士ノ翼賛ニヨリ
 之ガ目的ヲ達セントスルノ希望ヲ述ベテ記念館
 報發刊ノ祝辭トナス

川越圖書館

創立十周年ニ對スル愚感

館長 菅野政五郎

川越圖書館創立以來茲ニ滿十周
 年ニ當リ、小生ノ念頭ニハ油然而
 トシテ盡キヌ感想ノ起ルヲ禁ジ
 得ナイ、十年一昔ト云フガ我が
 圖書館ノ一昔ヲ經ル間ニハ一消
 一長一喜一憂交々錯綜シテ、多
 クノ曲折ヲ見タモノデアアル。此
 ノ館ト終始關係ヲ續ケテ來タ小
 生ニハ其ノ間ニ於テ此ノ館ノ事
 業上ニ就キ、某々ト議論モ交ヘ
 懇談モシタ、其ノ聲ガハツキリ
 ト耳朶ニ存シ、或ル場合ニ起ツ
 タ光景ガ目前ニ浮ンデ來ルノデ
 アル

明治四十三年四月ニ川越尋常高
 等小學校ノ一室ニ學校圖書館ヲ
 設ケ、兒童文庫并ニ校外ニ於ケ
 ル青年處女ノ閱覽用ニ資セント
 ノ目的ヲ以テ、圖書ヲ當校ノ卒
 業生其ノ他一般有志者ニ對シ、
 趣旨ヲ傳ヘテ各家庭ニ於ケル所
 藏ノモノヲ寄贈セラレンコトヲ
 願ヒ、小規模ナル設備ヲ着手シ
 タ、固ヨリ玉石混淆ハ覺悟シテ
 居タガ、其ノ冊數ハ續々書架ニ
 積ムコトヲ得テ、中ニハ相當ニ
 價値アルモノモ集リ、小生等ノ
 喜ビハ一方ナラズ、寄贈者ノ好
 意ヲ深ク感謝シタ。

是レト少シ後レテ安部立郎氏ヲ
 中心トスル、川越中學校ノ生徒
 諸氏ヲ以テ組織セラレタル、同
 志會ガ、會ノ事業ノ一トシテ江
 戶町ノ一家ヲ借り、圖書閱覽所
 ヲ設ケ、學校ノ往復等ニ於テ、
 閱覽ヲ續ケ居リ、相當効果ヲ舉
 ゲツ、アツタ。是ニ於テ小生ト
 安部氏ト、數回協議ヲ重ネテ結
 果、兩方トモ殆ンド性質モ目的
 モ類似ノモノデアアルカラ、二者
 ヲ合同シテ、一体トナルガ利益
 ヲ大ニスル所以ナラントノ協定
 ヲ遂ゲ、大正二年十二月二十日
 ヲ以テ、私立川越圖書館トシテ、
 其ノ筋ニ開申シ、位置ハ依然川
 越尋常高等小學校ノ一室ヲ充用
 シ、費用ノ大多數ハ川越學事獎
 勵會ヨリ支出シテ維持シ來リ、
 閱覽者ハ月ヲ追テ増加シ、新刊
 圖書モ少シツ、購入備附スルコ
 トガ出來タ。是レマデハ實ニ十
 周年以前ノ事デアアルガ、本館
 ノ前身デアアルカラ一言シタ次第
 デアル

大正四年五月一日ヨリ、現今ノ
 南久保町ノ位置ニ轉シ、從來ノ
 建物ニ修繕ヲ加ヘ、稍々圖書館
 トシテノ体裁ヲ整ヘ、引續キ私
 立トシテ開設シタ。此ノ建物ハ
 某有力者ノ仲介ニヨリ、鹿戸彦
 四郎翁ノ提供サレタモノデ、同
 翁ノ篤志ハ此ノ館ノ成立ニ大ナ
 ル關係ヲ有スルコトヲ忘ル、コ
 トハ出來ヌ。猶此ノ際本館ノ將
 來ヲ考ヘ、基礎ヲ強固ニセント
 ノ目的ヲ以テ、維持費ノ募集ヲ
 始メタルガ、有志者ノ同情ハ盛
 ニ集リ、多額ノ應募ガアツタ。
 茲ニ應募者多數各位ノ御篤志ニ
 對シテハ厚ク感謝シ、同時ニ寄
 附ヲ請フ爲ニ、百方奔走盡力セ
 ラレタル青年其ノ他幹部諸氏ニ
 對シテハ其ノ煩勞ニ酬ユル言葉
 ガナイ。當時川越町費并ニ入間
 郡費ヲ以テ年々補助ガアツタコ
 トモ忘レテハナラス。

大正七年六月十二日ヲ以テ、川
 越町立ノ手續ヲ了シ、年々規模
 ヲ進メ來リ、大正十一年十二月
 一日ヨリ市制實施ニ伴ヒ、今日
 ノ市立トナリタル次第デ、當時
 ニ於ケル町及市ノ當局各位及議
 員諸氏ノ御盡力ト御同情ニ對シ
 テハ固ヨリ深厚ナル謝意ト敬意
 トヲ交々表セネバナラス

本館ニハ、澁澤子爵、高田文部
 大臣、石田陸軍少將モ來館セラ
 レ、講演并ニ額面ノ揮毫ヲモ請
 ヒ得タコトモアリ、本館ノ光榮
 トシテ感銘ニ堪ヘヌ。猶本館ニ
 對シ、極メテ珍貴ナル書籍ヲ寄
 贈セラレタル諸君モ少カラズ、
 之レガ爲ニ、本館ノ名聲ヲ遠近
 ニ發揚スルコトモ出來タ次第デ
 アル

以上ハ本館創設十周年ヲ迎ヘテ
 余ノ念頭ニ浮ブマ、ヲ沿革上ヨ
 リ概略ヲ記載シタニ過ギヌ。要
 スルニ本館ノ今日アルハ大多數
 ノ有志諸氏ノ精神上ヨリ、物質
 上ヨリ努力上ヨリ熱烈ナル同情
 ノ凝結シタル賜ト云フノ外ハナ
 イノデアアル

將來一般各位ノ贊助ヲ得テ、地
 方ノ文化ヲ促進シ、順序アル發
 達ヲ期スルニ遺憾ナカラシコト
 ヲ祈ル次第デアアル

大正十四年四月二十八日印刷納本

大正十四年五月一日發行

發行編輯人

埼玉縣川越市大字川越七三〇 菅野政五郎

印刷人

埼玉縣川越市大字川越一四五〇 青山博吉

附ヲ請フ爲ニ、百方奔走盡力セ

ラレタル青年其ノ他幹部諸氏ニ

對シテハ其ノ煩勞ニ酬ユル言葉

ガナイ。當時川越町費并ニ入間

郡費ヲ以テ年々補助ガアツタコ



川越圖書館略史

司書 厚見玉泉

「もう十年になりますか」
と皆さんは言はれる。誠に流る
る歲月とはよくも言ひました。

大正六年
四月二十三日 富田縣學務課
五月一日 小川縣視學來館
九月二十五日 秋元子爵來館
十月二十七日 町長以下町會
議員二十餘名來館視察

大正七年
三月二十三日 成毛縣內務部
長、小川縣視學來館
六月十五日 川越町立圖書館
認可
此年度末より館の内外修繕
のため日時を費す

大正八年
六月十六日 本館創設功勞者
竹谷兼吉翁葬儀館員一同會
葬
七月六日 本縣々視學平野孝
氏來館
七月二十日 より館員及有志
のため講習會を開催す

大正九年
一月二十一日 川越中學校二
年級丙組生徒は金子道啓氏
の引率にて來館、目錄カ
ド使用法等見學練習す
二月十日 内尾本縣々視學來
館
五月一日 開館五周年記念日
につき兒童大會を開催す

大正十年
六月九日 岩崎紀博氏より令
息義博君の死を悼み之が記
念の意味を以て義博文庫圖
書數百冊を寄贈せらる
十二月二十二日 本館圖書の
榮成る
大正十一年
十二月一日 當地市制施行の
結果市立圖書館と成る
一月九日 館員伊藤俊平君宇
都宮六十六聯隊へ入營
一月十五日 安部司書辭任、
厚見玉泉書記拜命
二月十三日 川越市會議員二
級選舉、安部前司書當選せ
らる

雜錄

員任命
六月三十日 より七月八日ま
で、改築工事
十月二十六日 文部省圖書監
修官内田寛一氏、同屬佐々
木豊次郎氏來館
十一月三日 本館名著新着書
紹介堂千部青山印刷所より
納付
同 十二月 武田市長夫人遊
去せらる
十二月二十六日 司書齋藤藤
七氏辭任さる
大正十四年
一月六日 館員井口正夫君、
同伊藤俊平君書記任命
一月十日 元館員厚見玉泉司
書任命
二月二十二日 縣下一齊圖書
館で協賛し講演會開催
大雪の爲集まる者殆んど兒
童なり、教育講談士伊藤桃
香氏の寄附講演あり
三月九日 井口書記辭任
四月十日 全國圖書館大會出
席のため厚見司書上京
同 十二月 厚見司書と交代
のため伊藤書記上京
同 十五日 大會終了、伊藤書
記歸館

文部省當局者の全國圖書館調査の際、或館の報告書には開館日數三百六十五日とあつたので、其非常識には呆れたとあります。年中無休は新聞の標語であり、すがその新聞でさへ今日では一年何回かの休刊を致します。圖書館の如きは閱覽者が多ければ多い程整理で休館の必要を感ずるのであります。恐らく整理を必要としない位微々たる館であつたでせう。

外國、殊にアメリカには堂々たる圖書館學校が設けられてあり、カーネギー財團の設立に係る圖書館學校の如きは完備したものと言はれて居ります。日本では京都帝國大學に此講座が設けられる噂がありました。其結果はまだ存知ません。本年度の全國圖書館大會には館員養成の爲の講習會開催の件が建議されましたが、是非其實現の程を望んで居ります。

帝國圖書館で圖書相談部といふものを設けて一般研究の相談に供しやうとしたら、古本をかつぎ込んで此を賣りたいが相場はどの位の見當だらう。なご、途方もない相談を持ち込んで來られるので閉口してると聞きました。尤も貸本屋と圖書館との區別がまだはつきり判らない人があるそうですから、此位の誤解はあるかも知れません。

水戸の縣立圖書館では、舊式の分類法をやつてゐた、ために現在十萬に垂んとする圖書を擁してその整理に苦しんでゐるそうです。これは見學に何つた時同

館の司書のお話でしたが、水戸徳川家の貴重圖書を澤山預つてゐるが何分、檢索に不自由な爲一般閱覽者が利用出来ないで困つてゐるといふ事でした。もう今日では大抵の館で十進開帳法を探つてをりますから、此方面で苦んでゐる例は少いと存じます。

入館すると一々閱覽票へ氏名職業等記入させられるので煩く嫌だといふ人がありますが、館としては是非共、社會の讀書傾向や、その他一般の統計を取ります上に必要なのですから、此方の立場にも御同情あらんことをお願いいたします。本館としては、まだまだ、いろいろな設備をしたのでありまして、例へば、下駄箱の改良、消毒設備、休憩室、講堂、など、理想案は持つてゐますが、今日早急に之を實現するわけに参りません。まあ段々と小部分の改造から着手して行かうと思つてをります。

川越圖書館 創設當時の功勞者氏名
故安部立郎氏
岩崎紀博氏
菅野政五郎氏
畑尾源太郎氏
鳥越錦三氏
大塚釜衛氏
大野仲次郎氏
笠松仙英氏
染谷清四郎氏
仲要次郎氏
新井爲次郎氏
水村益三氏

右創設に盡力せられたる人々

には十周年記念式當日武府市長より感謝状を呈し謝意を表せらる、等
多敷閱覽圖書
(兒童用圖書を除く)
通俗財話 子や貸し屋
陸の人魚 十字街頭を往
きもの 壁の壁きく時
啄木全集 一人歩む
破船 半七捕物帳
啓吉物語 多情佛心
大菩薩峠 青春
砂に描く 日米戰爭歩物語
趣味の無線電話 嘆きの市
日本膨脹論 一日の行樂
世界の終り 宇宙の構造
ドモ又の死 默阿彌脚本全集
芭蕉の俳句 漱石全集
最も要領を得たる外國地理 仇討十種
童謡の新研究 鐵道旅行案内
貞操 國史美談
犬、猫、人間 星は亂れ飛ぶ
趣味の小學國史 空中征服
日米若し戦はば

川越圖書館圖書統計
第一門 叢書、辭書、隨筆、書目 一、一九五
第二門 哲學、教育、宗教 一、三二六
第三門 政治、法律、社會、軍事 一、〇三六
第四門 經濟、產業、工藝 五二四
第五門 理化、數學、醫學 七〇〇
第六門 歷史、傳記、地誌 一、三九四
第七門 文學、語學、運動、學校 二、五五五
第八門 美術、娛樂、社會、雜誌 八三四
第九門 家庭、社會、雜誌 九三二
第十門 兒童圖書、貴重 八八八
合計 一、六三四
和漢書洋書別 一、〇九五 一八、三七二
洋書 一、二六九 一、三四二

和漢書洋書別

大暴風雨時代 菊池寛傑作集
イェスの内部生活 獸人
日本大震災史 眞空管式無線
電話の話
黃雀風 大日本時代史
我輩は猫である 雨に咲く花
如何にして一身の方向を定むべきか
反抗 電氣の世界
兒童源平盛衰記 地震の科學
恐怖の映畫 深紅の腕
電子の自叙傳 童謡の新研究

最近閱覽傾向

職業別	一月	二月	三月
中等學生	六四三	六四三	六四三
其他學生	八	三	六
官吏	四	四	四
宮公	四	四	四
教員	七	六	四
農業者	一七	一六	一四
工業	一七	一七	一七
商業	一七	一七	一七
社會	一七	一七	一七
職業	一七	一七	一七
小學生	一、四九二	二、四七〇	三、九三三
計	二、五二二	三、五九二	五、〇六六
一日平均	一〇〇、五	一四〇、八	一七六、一

和漢書洋書別

備付新聞雜誌一覽表

種別	新聞	雜誌	少年	世界
中央公論	少年俱樂部	少年俱樂部	少年俱樂部	少年俱樂部
新潮	少年の友	少年の友	少年の友	少年の友
實業之日本	少女世界	少女世界	少女世界	少女世界
演劇新潮	少女の友	少女の友	少女の友	少女の友
主婦之友	アサヒグラフ	アサヒグラフ	アサヒグラフ	アサヒグラフ
早稲田文學	時事新報	時事新報	時事新報	時事新報
運動界	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞
講談雜誌	報知新聞	報知新聞	報知新聞	報知新聞
婦人俱樂部	上毛新聞	上毛新聞	上毛新聞	上毛新聞
中學學生	讀賣新聞	讀賣新聞	讀賣新聞	讀賣新聞
丁西倫講演集	官報	官報	官報	官報
子供の科學	時報	時報	時報	時報
伸びて行く	國際事情	國際事情	國際事情	國際事情
日本少年	國際事情	國際事情	國際事情	國際事情
海外時報	國際事情	國際事情	國際事情	國際事情

圖書寄贈者芳名 (大正十三年度)

加島 仕郎	室田 覺治	室田 覺治	室田 覺治
川上 實	前田 侯爵	前田 侯爵	前田 侯爵
外務 省	尾道 圖書會	尾道 圖書會	尾道 圖書會
山口 玄洞	南 葵	南 葵	南 葵
松野 勝太郎	內閣 統計局	內閣 統計局	內閣 統計局
安藤 孝一	岩崎 小彌太	岩崎 小彌太	岩崎 小彌太
川越商業會議所	孝女於伊麻舊跡保存會	孝女於伊麻舊跡保存會	孝女於伊麻舊跡保存會
鐵道省圖書館	福澤 桃介	福澤 桃介	福澤 桃介
東亞同文書院	埼玉官立學校	埼玉官立學校	埼玉官立學校
松倉 慶三郎	讀書普及會	讀書普及會	讀書普及會
臨時震災救護事務所	大賀 義文	大賀 義文	大賀 義文
明文堂書店	神 豐	神 豐	神 豐
本城 徹心	山田 清	山田 清	山田 清
大阪出版社	海軍 省	海軍 省	海軍 省
岸武 八	磯ヶ谷 紫紅	磯ヶ谷 紫紅	磯ヶ谷 紫紅
中田 彦二郎	井上 信二	井上 信二	井上 信二
川越少年刑務所	東北帝國大學	東北帝國大學	東北帝國大學
大倉 喜八郎	長谷川 誠一	長谷川 誠一	長谷川 誠一
佐々木 高吉	萬年社出版部	萬年社出版部	萬年社出版部
山本 彌太郎	成田 山新勝寺	成田 山新勝寺	成田 山新勝寺
關東 友太郎	宮内省	宮内省	宮内省
橋詰 友太郎	對米國民同志會	對米國民同志會	對米國民同志會
小峰 宗隆	對米國民同志會	對米國民同志會	對米國民同志會
文部 省	對米國民同志會	對米國民同志會	對米國民同志會

圖書寄贈者芳名

新着書案内(但し兒童讀み物は除く)

第一門(叢書、辭書、隨筆)

- 新ロシヤパンフレット 政局は斯くして動く 南蠻更紗 田園鎮夏漫錄 謎の人生 比例代表制度論 地球と太陽 毎日年鑑

第二門(哲學、教育、宗教)

- 教育大意提要 童話と兒童の教育 小學校の脱技と其指導法 カント雜考 愛の科學 教育と遺傳 懺悔の生活 童話教育の實際 算術の心理學 イエスの内部生活

第三門(政治、法律、社會、軍事)

- 現代の不安 婦人問題の解決 ラスキンの研究 唯物史觀の改造 對米問題と國民の覺悟 優良青年團現況 日本膨張論 嘘の効用 法窓夜話

第四門(經濟、産業、工藝)

- 實用色染學 實用機械法 無機製造工業化學 自動車ハンドブック 日本綿布の世界的地位 日本資本主義經濟の研究 國際財話 通俗財話

第五門(理化)

- 化學通論 化學計算法 理論物理學 昆蟲記 文化人類學 理科年表(大正十四年) 數學叢書 物理學と認識

第六門(歴史、傳記、地誌)

- 武藏野及其周圍 紙上世界漫畫漫遊 鐵道旅行案内 明治文化發祥紀念誌 皇太子殿下御巡遊日誌

第七門(文學、語學)

- 戀愛秘語 人類の爲めに 半七捕物帳 三太郎 大暴風雨時代 暮春時話 壁の聲きく時 祭の夜の出來事 愛なき人々 砂に描く 冷火 戀愛病患者 勤人 名君 黒谷夜話 同志の人々 陸の人魚 或兵卒の記録 我れ世に敗れたる 闇に閃ゆる 啄木全集 有島武郎全集 幽芳全集 鷗外全集 世界童話大系 武者小路實篤全集 時之氏神 超一人歩む 無明と愛染 心より心へ

第八門(美術、娛樂、運動、社會雜俎)

- 自由書教育 油畫のスケッチ ラグビー 野球ニ関ス 理想的文化住宅 子供を賢くする爲に 寫眞術講話 最新寫眞術 撞球指南

川越市立川越圖書館々則

第一條 本館ハ圖書記録及雜誌等ヲ蒐集保存シシテ公眾ノ閱覽ニ供スルヲ以テ目的トス 第二條 本館ニ左ノ職員ヲ置ク 一、館長 一名 二、司書 一名 三、書記 若干名 第三條 館長ハ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス 司書ハ館長ノ指揮ヲ承ケ圖書ノ整理保存及閱覽ニ關スル事務ヲ掌ル 書記ハ館長及司書ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス 第四條 本館ノ開閉時限ハ左ノ如シ但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ 每日午前九時開館午後九時閉館 第五條 本館ノ休日左ノ如シ但シ臨時ノ休日ハ其ノ都度之ヲ揭示ス 一、一月一日ヨリ同月五日マテ 二、大祭祝日 三、八月九月中凡一週間 四、十二月二十八日ヨリ同月三十日マテ 五、毎月第三月曜日(館内整理ノタメ) 第六條 年齢七歳以上ノ者ハ本館ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得 第七條 閱覽人ニ貸與スル圖書ノ員數ハ同時ニ三種十冊以內トス 第八條 閱覽人ハ閱覽票ヲ受ケ之ニ所要ノ事項ヲ記入シ掛員ニ差出シ圖書ヲ受取ルヘシ 第九條 閱覽室ニ於テ音讀、雜話、喫烟、其ノ他喧嘩ニ涉ル行為ヲ禁ス 第十條 閱覽室ニ於テ音讀、雜話、喫烟、其ノ他喧嘩ニ涉ル行為ヲ禁ス 第十一條 借覽ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚染毀損シタルトキハ同一ノ圖書若クハ相當ノ代價ヲ辨償セシム 第十二條 本館ニ圖書ヲ寄贈セントスル者ハ圖書名、員數、價格等ヲ詳細シタル寄贈書ニ現品ヲ添ヘ本館ニ差出スヘシ 寄贈ノ圖書ニハ寄贈書ノ氏名及寄贈年月日ヲ記載シ永ク其ノ篤志ヲ表彰ス 第十三條 公衆ノ閱覽ニ供スル目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ保管ヲ委託セントスル者ハ圖書名、員數、價格等ヲ詳細シ本館ニ申出テ許可ヲ受ケヘシ 第十四條 受託ノ圖書ハ本館所藏ノ圖書ト同一ノ取扱ヲ爲スモノトス 第十五條 受託ノ圖書ニシテ火難、盜難、其ノ他避ケヘカラサル災害ニ罹リ亡失又ハ汚損スルコトアルモ本館ハ其ノ責ニ任セズ 川越市立川越圖書館